

[畜産部門 平成29年度 普及する技術]

事 項 名	サイレージ用トウモロコシの奨励品種「タカネフドウ（系統名長交C980）」の特性		
ね ら い	本県に適するサイレージ用トウモロコシの品種を選定するため、流通品種の生育特性及び収量性を検討した結果、「タカネフドウ（系統名長交C980）」が既存の奨励品種と比較して耐倒伏性に優れることが明らかとなったので、奨励品種として普及に移す。		
普 及 する 内容	<p>1 来 歴 国内で育成されたデント種×フリント種の単交雑一代雑種であり、平成26年から販売している。</p> <p>2 主な特性（標準品種「パイオニア126日（系統名32F27）」との対比）</p> <p>(1) 初期生育は良好である。 (2) 生育日数は2日程度遅い晩生品種である。 (3) 倒伏の発生はかなり少なく、耐倒伏性は極めて優れる。 (4) 病害の発生は同程度である。 (5) 乾物収量は3か年平均で98%を示す。</p>		
期待される 効果	サイレージ用トウモロコシの安定生産に資する。		
普及上の 注意 事項	黄熟期に達するためには単純積算気温2,500～2,600℃が必要であるため、上北北部地域や下北地域においては5月上旬に播種する。		
問い合わせ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対 象 地 域 及び経営体	県下全域の畜産 経営体
発表文献等	畜産研究所研究報告第3号（予定）		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「タカネフドウ（長交C980）」の生育特性及び収量

(平成26～28年 青森畜産研)

品種・系統名	年次	初期生育	絹糸抽出期 (月/日)	刈取日 (黄熟期) (月/日)	生育日数 (日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏 (%)	折損 (%)	病害		乾物収量		雌穂割合 (%)	TDN含有率 (%)
										すす紋病	紋枯病 (%)	総重 (kg/10a)	標準比		
タカネフドウ	平26	8.3	8/4	9/29	144	290	148	4.0	0.0	2.0	14.5	2,210	112	47.3	68.3
	平27	8.7	8/4	9/30	142	283	129	1.3	0.0	1.3	7.7	1,752	91	52.2	69.6
	平28	7.7	8/6	9/26	139	280	134	7.0	0.0	3.0	22.3	1,760	92	51.6	69.4
	平均	8.2	8/5	9/29	142	284	137	4.1	0.0	2.1	14.8	1,907	98	50.1	69.0
ハイオニア126日 (標準品種)	平26	8.3	8/4	9/24	139	282	139	15.5	0.0	2.0	9.2	1,980	100	41.8	66.9
	平27	7.0	8/2	9/30	142	289	122	0.0	0.0	2.3	15.4	1,926	100	53.0	69.8
	平28	6.3	8/6	9/26	139	296	127	42.3	0.0	3.7	15.4	1,916	100	53.4	69.9
	平均	7.2	8/4	9/27	140	289	129	19.3	0.0	2.7	13.3	1,941	100	49.3	68.8

- (注) 1 初期生育は9（極良）～1（極不良）とする評点法による。
 2 すす紋病は被害程度と被害面積に応じて1（無）～9（甚）とする評点法による。
 3 紋枯病は罹病個体の全個体に対する割合。
 4 TDN推定式: $56.0 + 0.26 \times \text{雌穂割合}$ 。
 5 平成26年: 7/27の強風による影響で倒伏。倒伏による受粉障害により雌穂乾物収量低め。
 6 平成28年: 8/30の台風及び前線による影響で倒伏。

耕種概要

項目	内容
試験圃場	畜産研究所内圃場（平成28年で連作9年目の圃場）
播種期	平成26年5月8日、平成27年5月11日、平成28年5月10日
栽植密度	6,061本/10a（畝間75cm、株間22cm）
施肥量	N-P ₂ O ₅ = 10-10kg/10a、牛糞堆肥4,000kg/10a
除草法	播種後に土壌処理剤、トウモロコシの2～4葉期に茎葉処理剤を散布